

復興に向けたビジョンへ

東京大学大学院工学系研究科
教授 古米 弘明

東日本大震災の特徴

広域、複合震災（地震と津波被害、原発問題）、余震継続

被災地：津波による壊滅的な被災地域と従来型の災害復旧地域

被害実態の把握、情報整理、記録と検証

どのような被害、障害が起きたか、またどのように対処したか、また過去の経験からの工夫が役立ったかを記録にとどめて次に活かしていくこと。そのためにも確認された障害の原因や課題解決への道筋を全員で検証すること。様々な立場の人が積極的に情報発信し、その情報を集約することが今後の水道を考えていくことにつながる。この大震災から、我々はしっかりと学び、学び続けること。そして、新しい知恵や方策を生み出し、復興への提案へ。

3つ論点と復興に向けたビジョンへ

① 短期と長期：緊急対応、応急復旧、本復旧、復興、時間スケール対応

② ハードとソフト面：耐震化、維持管理、情報、リスク管理、支援体制

③ 広域的・複合的な災害への対応：想定外からの脱却、災害リスク

正しい情報を入手、情報の共有、ネットワークによる人材や物資供給

総括と現場のリーダーシップ、水道の広域化でネットワークの充実

危機管理体制と通信情報ネットワークの充実、リスクコミュニケーション

水道管路台帳と情報管理システムの導入義務、基幹管路の耐震化の推進

水道広域化や複数水源確保、自然流下と低炭素化社会への貢献へ

先見力のある水道力アップ、上下水道の連携力アップ

更新、再構築、復旧ではなく、復「新」であり、復創、「創新」の概念

新しいまちづくりと水道の復興ビジョンとの整合性

強い意志と情熱を持ち一丸となって、強くしなやかな日本の水道へ